

キク類におけるCO₂施用および 夜間冷房の活用による品質向上

背景

キク類の施設栽培では、冬の低温寡日照による草丈の伸長不足、夏の高温による奇形花等、出荷規格外の切り花の増加が問題となっていました。

成果の内容

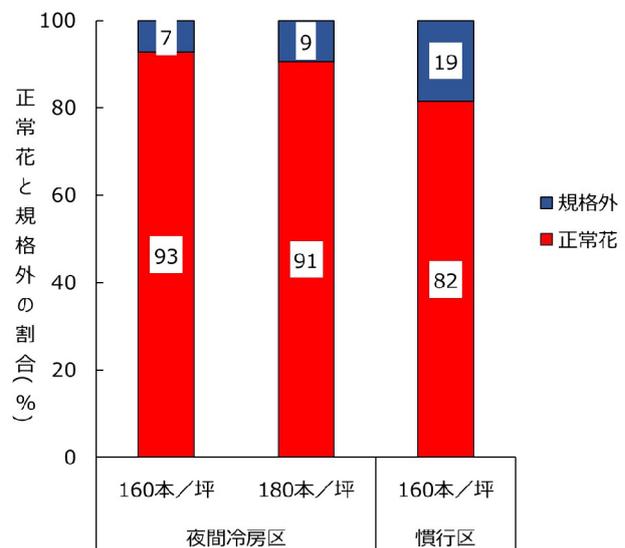
冬の草丈伸長不足はCO₂施用で、夏の品質低下は夜間冷房で改善し、出荷規格外の切り花を減らすことができました。

CO₂施用により、輪ギクおよび
スプレーギクで切り花長が増加

品種	CO ₂ 施用	切り花長 (cm)
輪ギク「神馬」	有	120
	無	107
スプレーギク「セイヒラー」	有	133
	無	121

3月出荷作型の輪ギク、スプレーギクでは、栽培期間中、日中400~800ppm濃度のCO₂を施用。

夜間冷房により、出荷規格外の割合が減少



10月出荷作型の輪ギク「精の一世」において、電照終了後の2週間、夜間冷房(23℃、12時間)。

【研究者のコメント】

○この技術の活用により、周年栽培を行うキクの生産性向上に貢献できます。

(苗木・花き部 花きチーム)